

まさか **自分が** だまされるなんて…



犯人は日々、ハガキやメールを送ったり、電話をかけるなどして、あなたの事を狙っています。今回は、キャッシュカード詐欺盗と電子マネーを利用した架空料金請求詐欺について事例を挙げてご紹介します。

キャッシュカードのすり替え被害が発生!



キャッシュカード
詐欺盗

被害者Aさん宅の固定電話に市役所職員を名乗る男から、「医療費を払いすぎてるのでお金の還付がある。こちらから銀行にお金を振り込む手続きをする。」などと電話があった。男の言うことを信じたAさんは、金融機関名と口座番号、暗証番号を伝えてしまった。男は、「手続き後、今使っているキャッシュカードは使えなくなる。新しいカードは後日届ける。」等と言って電話を切った。

同日、Aさん宅に金融機関職員を名乗る男が訪れ、「市役所から連絡を受けて来た。古いキャッシュカードは使えなくなるので、この封筒にハンコを押して保管してほしい。」と言われ、被害者が印鑑を用意するため目を離した隙に、別のカードとすり替えられて盗まれた。

その後、Aさんが親族に相談し、封筒の中身を確認したところ、封筒内にはキャッシュカードはなく、別のカードとすり替えられていることに気付いた。

県内で約437万円の被害が発生!



架空料金請求詐欺

被害者Bさんの携帯電話に、「あなたの個人情報が記録されているログが海外のサーバーに残っており、削除しなければならぬ。今すぐであれば、解約作業は1万円で済む。」等とショートメールが届いた。メールに添付のサイトを開くと「プリペイド型の電子マネーカードを購入して、現金を振り込み、カード番号と認証番号を教えてください。」という内容のメールが届いた。Bさんは、プリペイド型の電子マネーカードを購入し、メールでカード番号、認証番号を伝え、複数回に渡り入金した。その後も、犯人から「もう少しお金を振り込むと一定額となり、今まで振り込んだお金を還付することができる。」と言われ、還付金を受け取るために振り込み続けていたが、いくら振り込んでも返金されないため、不審に思い警察へ通報した。

1 電話はいつも「留守番電話」に。また「通話録音装置」が効果的!

犯人は、自分の声が証拠として残るのを避けます。在宅時でも留守番電話にして、必要な電話は後からかけ直しましょう。また、着信時に警告アナウンスが流れ、会話内容を自動録音できる「通話録音装置」が効果的です。自治体によっては無償貸出を行っていますので、お住まいの自治体にお問い合わせください。

2 家族の間で「合言葉」を決めておきましょう!

犯人は「風邪をひいて声が変わっている」等と言葉巧みにだましてきます。声だけでは、電話の相手が家族かどうかわかりません。あらかじめ家族の間で「合言葉」を決めておきましょう。

3 電話をかけなおして相手を確認しましょう!

公的機関や金融機関を名乗る者からお金に関する電話があった場合は、相手の所属と氏名を確認し、一度電話を切ってから、改めて公的機関や金融機関の代表電話を調べて電話をかけるなど注意しましょう。

3つのポイント

電話やメールでお金の話がでたら

まずは**家族や警察に相談**してください。



作成元

富山県警察本部 生活安全部 生活安全企画課 犯罪抑止対策係
電話:076(441)2211(代表) **【#9110 警察相談専用電話】**



「だまされんちゃ!」
YOUTUBEでも
絶賛公開中!!